

## 平成 23 年度岩手県立図書館協議会会議録

1 期 日 平成23年10月25日（火）13：30から15：30まで

2 場 所 岩手県立図書館 研修室

### 3 出席者

#### (1) 協議会委員

安 保 位 子 委 員 及 川 典 子 委 員 斎 藤 純 委 員  
佐々木るみ子委員 澤 口 杜 志 委 員 土 方 和 行 委 員  
藤 原 哲 委 員 宮 手 一 恵 委 員

#### (2) 事務局

ア 県立図書館

酒井館長 稲森副館長 澤口主任主査 神久保主査 菊池主任 齊藤主任

イ 指定管理者（図書館業務担当）

菊池総括責任者 村松副総括責任者 北條副総括責任者 似内サービス部門責任者  
安保総務部門責任者

### 4 会議の概要

#### (1) 開 会

岩手県立図書館管理運営規則第10条第2項に基づき会議の成立を報告

#### (2) 挨拶

酒井館長

#### (3) 報告及び協議

ア 東日本大震災に係る被災地・被災者支援について

事務局から資料No. 1に基づき説明した。

#### 【質 疑】

(佐々木委員) いろんな取り組みをされてきたなというのが今の報告ですごくよくわかった。例えば、避難所等での読み聞かせ、子ども向けの読み聞かせを野田村と岩泉町で実施とあるが、こういったのは県立図書館が単独で行っているのか。それとも被災地の近隣の市町村との連携によって、その市町村が、何度も何度も足を運びながら行ってきているのか。

(事務局：県) これについては、市町村を訪問していく中で、県のほうから市町村の実態を聞くとともに、何かそういうことがないか希望をとっていった。読み聞かせもできるし、児童に対する指導ができるという話をしたところ、野田村と岩泉町のほうからぜひしてもらいたいという申し出があった。そういう中で指定管理者のTRCが読み聞かせの活動をしていたので、主体となって、それぞれの2つの町村で行った。こちらのほうから呼びかけをしてやった。ただ、ほかにいろんな団体が読み聞かせとか、そういうようなものをしているので、それはそれでやっていただいて、県立図書館として

市町村訪問をした中で、要望を聞いたところ、その2つからあったので、行ったというのが経緯である。

(佐々木委員) 県から、盛岡からわざわざ沿岸のほうに行って読み聞かせをしたということだと思うが、市町村には図書館で活用しているそういう読み聞かせだったり、紙芝居だったり、いろんなことをやっている団体がある。私遠野ですが、遠野市はどこの被災地にも近くて、とにかくいろんなところに支援、それこそ文化財レスキューもそうであるが、やっていると聞いている。実際私が行っているわけではないので、いろんな会議の中で報告がある。そんな中で、単独でやるにはそれこそ限界があり、いろんなボランティアの協力とかいただきながらやっているわけではあるが、やはりそういうときに県内のいろんなところと、もちろん県ともであるが、横の連携をとりながら、必要なところに素早く支援するという、そういう体制をコーディネートするのが県なのだろうと思う。近いからどうしても遠野が一生懸命やっているようにクローズアップされている部分というのは何となくいろんな面であると思うのであるが、そうではなくてやっぱりいろんなところから応援いただきながら、そういうのを的確にコーディネートしていくのがやっぱり県の役割なのかなというのを非常に感じる。例えば読み聞かせであってもそうであるが、近隣のところの図書館が把握しているような団体、そういうところでもっときめ細やかに訪問とかもできるのかもしれないので、そういう情報のやりとりをしたり、また、仮設を訪問する移動図書館で本を運んだり、そのようなネットワークづくりとか、そういった部分のコーディネートとか、そういうのをさらに強力に進めていただければと思う。

(事務局：県) 提言は全くそのとおりであり、我々としてもできる範囲ではやらせてはいただいているが、まだまだ足りない部分が多々あると反省はしているところである。説明の中でも少し話したが、支援体制づくりというか、そのようなコーディネートというか、そういうものについては、大きな課題として、これから何か起きたときにうまく対応できるような形で早急に検討をさせていただきたいと考えているところである。

(斎藤委員) 僕ら仲間たちと3月13日にはもうSAVE IWATEという支援団体を立ち上げて、多分盛岡で一番大きい団体だと思うが、支援活動を行ってきた。本は多分1カ月か2カ月目ぐらいから必要になるだろうという思いはあったが、1週間後ぐらいに本が欲しい、それから読み聞かせに来てほしいと。学校が休みだったこともあるし、本が流されていないところもあり、避難所でその子どもたちがもてあましていて。そういう声があり、去年図書館の研修のときにいらしていただいた読み聞かせのグループの方たちに連絡をとって、行ってほしいと、読み聞かせをお願いしたり、それから本も急遽集めて運んだりした。そのうち徐々に子どもの本については絵本プロジェクトというのが立ち上がって、末盛さんという方が中心になって、かなり活発な活動をされたので、そこからは我々は徐々に手を引いていっ

た。今マッチングという話があったが、図書関係に限らず、岩手県は初めてということもあって、何百という団体あるいは個人、何千でしょうね、わっといろいろな活動してきたわけで、本も1カ所にどきっと届いたということがあった。そういう本当にマッチングというのは大変だろうし、それやってくれませんかやるといのは、実際これはもう無理だろうと僕は思っている。随分その点は、遠野のまごころネットはすごく模範的なマッチングを今もやっていると思う。我々全然まねできません、あれは。そういう意味では、あれくらいで限界なのかなという気もするが、あれを全部トータルにコントロールするというのは県でも、国単位のレベルでも多分不可能なのではないかなという気がする。

(佐々木委員) それこそ文化研究センターのほうでその献本を受けている。かなりの本があり、市民が、中学生、学生から大人まで、例えば仕分けとか、そういったボランティアというか、そういうことにかかわりながらやっているというのが現状である。

(斎藤委員) この間の研修会の際に滝沢村立湖山図書館がBMに関する報告で、まだ本を持っていても迷惑がられるだろうと遠慮しながら行ったが、そうしたら喜ばれたと話していた。我々それを肌で感じていたので、本当に滝沢の取り組みは早くてよかったなと思った。

我々物書きは全然こういうときに必要とされないというふうに、高橋克彦さんもよくエッセーで書かれていたが、図書館の人たちも同じような思いを直後は抱いたのではないか。やはり人間はパンだけでは生きていけないというのがこういうときに明らかになったなと僕は印象を持っている。

(安保議長) 被災関係にかかわって、こんな体制があったらいいのではないかとか、支援コーディネートの話があったり、マッチングの話があったりしたのだが、こういうことを、例えばこれからやっていただいたらどうなのかなとかというご意見もいただければと。

(土方委員) 県立図書館が被災地にいち早くこのように支援体制を組んで大変ありがたいと思っているし、末長く、特に被害が大きかったところを重点的にお願いしたいと思っている。

私どもの一関は高田と気仙沼に一生懸命支援をしている。近いのでやっているが、高田だと、ほとんど毎日のように、教育系の職員でさえ別な仕事をしているような状況なわけであり、来てくれという声はきっと出てこないというか、むしろ押し込むと、県立図書館が無理やりでも押し込んでいくというようなお気持ちで進めていただけないと、そうしていただければありがたいなと思っている。

それから、これは多分一関市だけのことかと思うが、被災者の方が2,000人ぐらい来ている。そこで聞いてみたが、公民館、図書館に出入りしているという雰囲気がない。一番情報が必要な人たちが、実はそこを当てにしないような雰囲気がある。毎日の生活のほうは忙しいということもあるのだが。実は公民館や図書館が打って出てない。2,000人の人が来ているのに、

そこにチラシ一枚届けてないというようなことがあって、こういうのも県立図書館のほうからご指導賜ればと。私は言っているが、何を言っているのかみたいな話なものだから、それはやっぱりお願いしたい。

人の情報は公民館にあり、ほかの情報は図書館にある。時間も結構あって何していいかわからないという人が結構避難しており、どうして公民館、図書館に来ないのかと。それは存在も知らないわけではないのかもしれませんが、それまでの活動がよくなかったということがあるのかもしれない。いずれ市町村の図書館の人たちに打って出るというようなあたりをご指導賜ればありがたいなど、このように思っているところである。

(斎藤委員) 盛岡もはっきりしているだけで7月に370世帯が登録しているということであるが、僕らがわかっているのが500世帯、宮城、福島の方入れると1,000世帯の方が盛岡に避難している。その人たちのお世話をさせていただくという目的で、盛岡市が復興支援センターというのを設立した。僕はそこのセンター長を仰せつかっているのであるが、やはり最初いらした方は、盛岡に籍を移したので、故郷の大槌町の広報が届かない。山田町の情報がわからないという人たちがいた。その方たちに広報を我々はプリントしてお渡しする。それから、全戸訪問とか、そういう活動をしている。

阪神・淡路大震災のときに、震災から1年間は孤独死も自殺者も前の年に比べてふえなかったそうである。2年目から急激にふえたということで、神戸のほうからご指導があり、そういうセンターをつくってケアしないと、これからが本当は山場だよと言われ、そういうことをやっているの、一関でもぜひそういう活動を。

(土方委員) 市のほうとしては、今のようなことは保健師が全部縦断的に訪問とか、広報を届けるようなシステムはできているが、それは市としてやっているの、いわゆる教育機関たる公民館、図書館が意外に反応悪かったというので、私は怒っていると、それなりにできることがあったのではないのという意味で。どちらかという、待っている、建物があると待っているという感覚がどこかにあって、そういう意味で今申し上げた。

(安保議長) 今までの公民館、図書館像に、これからのという部分のところでもうちょっとこの震災を機に考えなければならないものもそこにあるのかなと。

それから、先ほど土方委員がおっしゃったように、待っているのではなくてどういうふうに出るかと言ったらいいか、本当に必要としている人がいらっしゃるところがあるのに、出方が悪いのか、何かが悪いのかということも考えていかなければならないのかなんて思ったりもしているが、皆さんからいろいろなご意見をいただいているうちにそのヒントは出てくるかなと思う。

(事務局：県) 非常に有益なご発言をいただき、大変感謝しているところである。県立図書館としては、そのようなことも含め、できるだけ市町村訪問していこうということで始めていったということがあるし、それから国立国会図書館というところがあり、そこに支援のお願いをし、主に6月に行ったとい

うことがある。確かに打って出るといところが図書館は弱いのではないかということ強く感じているので、これについては全国の会議や国立国会図書館主催の会議とか、そのような場で、全国的な支援にかかる組織とか、そのような窓口をどこにすべきとか、話しをしているところである。また、日本図書館協会の大会でも、そのような話をしているところであるが、これはやはり一つの大きな課題として、どのように体制的に持っていったらいいのかということを含め、いろいろと検討していきたいと考えているところである。

(宮手委員) うれし野子ども図書室で、陸前高田に今度トレーラーハウスの図書館を設置することになった。それまでの道のりは、決めてからまだ何カ月もたっていないが、うちの代表が陸前高田にもう何にもなくなっている状態だからと。私たち被災地に行って読み聞かせをしたのは2週間かそれぐらい後だったのだが、そこに行って一番感じたのが、皆さんがいるところに行くときやっぱり雑然とした感じがある、どこに行っても。それで、児童センターとか津波の被害の受けてないきれいな施設に行ったときにすごく安らぎを感じた。やはり、そういう場所に移動図書館で行って、皆さんに本を提供するのも大事なわけけれども、図書館が必要なのではないか。そこに達するまでには、仮設住宅を図書館にするとかという考えもあった。そのような中、土地を借りられるということになったときに、個人の土地で、掘られたりするという、そこに物を建てられるということにすごい拒否感があるような感じで、それであればトレーラーハウスとかであれば、誘致しやすいのではないかとするので、助成金もかなり大変な思いでとって、今度、陸前高田に設置できることになった。しかし、助成金もらってトレーラーハウスもちゃんと買ってあるという状態になっても、まだ土地のオーケーが出ない。もちろん陸前高田市とちゃんと提供してやりとりしているが、やっとならこの間オーケーになって置けることになった。こちらから陸前高田の担当の方に何回電話しても、やっぱり今はそういう状況ではないとか、とってまそこまでは考えられないとか。それでも、何度も連絡をして、本当にこんなに押して大丈夫なのか、本当にこちらとしてもいいのかなという思いがあったが、でもやっぱり一人の人とか、個人の熱意というのがやっぱりそういう形になったのだなと思う。この間の研修会にも参加したが、やっぱり個人の思いというのがすごく形になりやすい。本当に申しわけないが、皆さんの話を聞いているとすごい高いところから見ているような感じがして、果たしてここでこのように話し合っていることをその被災地の図書館の人たちとか、そういう人たちがわかっているのだろうかという、ちょっと心配な感じがしているが、でも私はそういうの全然わからないでしゃべっているから、もしかしたならばそういう働きかけも十分にされているのかもしれない。今度、トレーラーハウスが入るが、本当に小さい団体なので、最初助成金お願いしたときにトレーラーハウスのそのトラックの分しか頼まなくて、その後でテラスとか、そ

ういう部品なんかのそういうのも欲しいというので、最初500万、次300万。本のお金は連携していた団体からいただけるかと思っていたが、そうしたら全部が全部ということではなくて、本代も必要だったんだと。今その本代がなくて大変な思いをしている。そういうところへの援助というのがあるのか。うちでは助成金を探して、何百万とか何十万とか、そういうのを少しずつ借りながらやるという形なのであるが、もしかしたら、県立図書館で窓口とかなんとか、そういうのもお願いするような感じのものなのか、そういうのはどうなのかなと思って聞いたりしていた。

(安保議長) そういうご意見があったときに、例えばこういうところからご寄附いただけるようですよとか、そういうことは結局支援のコーディネートかなとも思ったりもする。私たちはこのような本が欲しいとか、ここでは読み聞かせの人たちが来てほしいとか、ここではこういうことということが、地区の図書館に上がって、それが県に上がってくるような、そのように情報が流れるといいのかなと。実際できるかどうかはわからないし、でもそのようになって欲しいなという感じはする。なぜそれ言っているかという刻々とニーズが変わってきているのではないかと、被災地のほうの。実は全国学校図書館協議会というのがある、6月にそれぞれの学校が流されたとなれば、どんな本がどの程度希望でしょうかという希望調査があった。私は、そのときに沿岸の方々にその情報を流して、それが全国学校図書館協議会にそのままいくシステムだったから、そうしていたのだが、また同じような調査がつい先日あって、これは本当にきめ細かに半年たたないうちに、また何カ月かのうちにこういうふうに、次はどうでしょうか、次はどうでしょうかというふうに、その時々刻々と変わる情勢に合わせてそのニーズに対応してくださるようになってきているのだなということ、それこそ情報として得て、いいなど。ですから、きっとこの後図書館協議会の委員皆さんからのご意見も何かの形で、どこかに発信されるなり、形になるなりということになって、うまい方向へ行くのではないかなという感じなので、ご遠慮なくご意見お出しただければいいかなと思う。

(斎藤委員) 宮手委員のところは、それは児童図書に特化した図書館なのか、一般図書も入れるのか。

(宮手委員) うち子ども図書館ということで。ただ高校生とか、ヤングアダルトまで入る。

(斎藤委員) 本当に子ども向けであれば末盛さんという盛岡の中央公民館が基地になっているが、あそこにどっさりあるにはあるのだけれども。

(宮手委員) でも、あそこに最初にお願いしたときに、選書してはだめだと言われた。コンテナを用意して、これを例えば10個なら10個持って行ってくださいと。そうすると、うちの場合は小さいところなので、その中から本当にいい本をやっぱり置きたい。それで、もらえなかったことがある。やっぱりいろんな本が来ているので何でもかんでもとは。あと今度選ばなかった本を処分するのが大変である。

(斎藤委員) あそこもそれで大変だから、そうやっておしつけようと、そんなこともないのしょうが。

(宮手委員) でも、今は選んでいってもいいということになったみたいだが、随分早い時点でそういうことがあったので。

さっき選書してはだめと言われたのは、その選書をしてくれたボランティアたち、一生懸命選書してくれたのを、さらにそこから必要なものだけを持っていくという行為は、その選書してくれたボランティアの方に対して申しわけないからやめてくださいということだった。それに関してはこちらでも理解できた。

(斎藤委員) 行って見るといいかもしれませんよ、また。

(土方委員) 私は役所の人間になるから、こういう状況のときは、役所というのは型どおりのことしか実はできないのであり、そういう意味ではさっき話のあったような個人のネットワークとか、いわゆるNPOとか、このようなほうがバツと行くわけである。私どもは、例えば現場に行くのに決裁もらって行かなければならぬという関係があるので、意外にできないのである。窓口として、県の場合は県立図書館になっていただくというように、市町村が意外にそういうことができないで、毎日のことに追われる。一関でさえ水道がとまると図書館職員は動員されるような状況もあるわけなので、その辺のところも見ていただいて、役所は何にもしないのではなくて、やっと落ちついてきて、次の段階に今来ている段階だご理解をいただければありがたいなど。ですから、申しわけないが、大分よくなってきたが、最初は本当に個人ネットワークですよ。やる気のある人がバンと行くしかない、ということなのだと思う。

(斎藤委員) 宮手委員の高田がちょっと動いてくれなかったとおっしゃったけれども、高田は9月の段階でも我々はまだ復興ではなくて、まだ災害対策中だというふうには役所は言っていたからね。やっぱりそういうところではそこまで手が回らないのはそうだろうなと思った。

(宮手委員) その中でも一生懸命やっぱりかかわっていただいたのだが、最後の最後の段階がなかなか大変だった。

(安保議長) というようなことのその情報が、県の図書館に集まればそれはそれでありありがたいと思うので。

(事務局：県) 県立図書館が大上段に構えているというつもりは全くない。本当に何らかの形で支援ができればといつも考えている。ただ、今お話しになられたようなことが私たちも情報として共有できていない部分がある。ですから、その市町村とか民間の方から上がってくる情報を吸い上げる仕組みをやっぱり、今は県立のほうから情報提供している。それに対してどうですかということなのだが、その逆の流れができるようにしないとせっかくの今までの課題が生かされないのではないかなと思うので、それは今後工夫していきたいと考えている。

(澤口委員) 何回か宮古と大船渡に、読み聞かせというよりは、読み聞かせも含めて

子育て支援という形でわらべ歌と絵本ということで行かせていただいている。宮古のグリーンピア田老に行ったときに、偶然知り合いに会い、その方も避難、被災されているが、その中でも頑張っており、いろいろ中心的役割をしていた。そのときは仮設ではなくて避難所であり、一般用とか、子供用の遊び場とか、本棚もあった。それから大人の方たちが手づくりをするようなコーナー、いただいたミシンなどもあった。そのうちに仮設に移り、この間、先週行ったときに福祉センターでお会いした。そうすると、そこに小学生が慰問に来たり、高校生がボランティアに来たりということを知ったが、そこで今の課題というか、現状を聞いたら、小学校で今取り組んでいると、ようやく。3.11絵本プロジェクトからも本を支援していただいて、小学校にたくさんある。ボランティアも始めたというが、自分自身がどうしても楽しい本が読めない。読み聞かせ支援に来てくださる方は約束をしているが、もしその方たちが来れなくなったら、継続してやりたいのだけれども、その継続のことを考えてしまうと話していた。だから、その時期を今考えている。でも、自分自身も本当はやっていかななくてはいけないのだけれども、どうしてもまだ本が読めないという、その気持ちがよくわかった。

実は赤裸々におっしゃっていたが、以前は30年代、40年代の本があって、もうどうしようもなかったと。だから、新しい本が来て本当にかえってよかったと言っていた。こんなときなのですが、ですが、今度はその本の設置とか、それから内容ですよね。これから取り組まなければ多分いけないのだろうと思う。もちろん図書館のほう落ちついたらなのでしょうが、やはり避難をした学校の図書館づくりというのがこれから課題だろうと、子どもたちはいま本当に勉強しなくてはいけないし、学校で読む本も必要だろうし、かつボランティアの方たち、学校図書ボランティアの方たち、その中には皆さん被災地の方たちです。その被災地のボランティアの方たちを支援する何かプロジェクトがもう少しできたらいいなと肌で感じた。

やはり、個人の力というか、人と人を結びつけるコーディネーターの役割のような方たちというのが本当に必要なのだなと。そこに行ったから、その方からお話を聞いて、こういうことで今困っているとか、こういう人がいたらなとか、そういう情報交換ということが必要だなという感じがする。

あとは小さい子に対して。現場を見るのが、被災状態を目にするのが本当に心を傷めてしまって、私たちもそうですよね、1カ月ぐらい本当に無気力になってしまって、何をしたらいいのだろうと。その中ではっきり言われたのが、絵本とわらべ歌がものすごい力になったと言われた。だから、人の声と本というか絵本というのが力になるのだなと、これから微々たるものなのであるが、まだやり続けられるなと感じた。

(安保議長) いろいろこういうことを聞くと、やはり図書館の力というのはすごく大

事だなど思うので、こっちからの情報発信だけではなくて、吸い上げるシステムでコーディネートということも、これからの課題にさせていただければありがたいのかなと思う。

**イ 平成22年度県立図書館事業実施状況等について**

事務局から資料No. 2 及び資料No. 3 に基づき説明した。

**ウ 平成23年度県立図書館利用状況等について**

事務局から資料No. 4 に基づき説明した。

**【質 疑】**

(土 方 委 員) 私は古文書のデジタル化は大変期待しており、この進捗状況どうなっているか。

また、県立図書館の図書購入費は幾らか。それから、貸出冊数だけが県立図書館の指標ではないと去年言われたが、やはり年間28万冊は少ないのではないかと思うが、この辺のご見解をもう一度お願いしたい。

(事務局：指定管理者) 古文書のデジタル化について、現在ホームページにアップしている資料は、73点となっている。今年度も図書館振興財団から助成金をいただき、今回は沿岸部の絵図ですね、そういった部分を少し補っていきたいと考えている。既にイーハトーブ岩手電子図書館において、岩手県立図書館で所蔵している本、貴重書というのをデジタルデータで公開しているが、そちらの解像度を少し上げたものを今年中にアップしたいと考えている。そちらについては、画像の調整のほうを今現在進めている。

(事務局：県) 資料費は大体3,200万円程度（平成21年度）である。これは一般財源ということで、それ以外に昨年度から外部資金ということで、ビジネス支援コーナーの図書の購入費に基金のお金を使っている。それから、貸出冊数について、確かに数字的には少ないと思うし、購入費がだんだん減らされているということ等と関連して、そういう面で若干少ない面もあるかと思うが、これについては図書館をどう見るかということもあり、貸出冊数だけではなかなか判断できない面もある。それ以外の例えばビジネス支援とか、レファレンスとか、そういうものもあわせて充実をしながら、その中で貸出冊数をできれば増やしていきたいと考えている。

(佐々木委員) 目録等の整備の項目で、県内図書館横断検索の参加率58%というのは、これは年々伸びている数字なのか。

(事務局：県) これは、そんなには伸びてないという状況で、職員数が多くて環境が整っている図書館が参加している形であり、なかなか伸びは緩やかだと感じている。

(佐々木委員) これに参加することによって、メリットは何か。

(事務局：県) これに参加すると自分の図書館の蔵書が全部公開され、利用が高まると思う。自分の読みたい本がその図書館にあるとわかれば、行って借りるということで、その図書館の利用が高まるという利点はあると思う。

(佐々木委員) 一般市民というか、一般県民が横断検索を利用できるということではな

いのですよね。

(事務局：県) これはインターネットで公開しているので、岩手県立図書館のホームページにアクセスすると、市町村の図書館の蔵書状況がわかる。例えばハリーポッターと入れると、ハリーポッターの本を持っている図書館がずっとリストで出てくるという形になっており、それが今貸出中であるかどうかともわかるので、貸出中でないところを選んで借りることができるような、もちろんそこには市町村の中での貸出になるが。

(佐々木委員) であれば、ぜひ進めたほうが一般の方も見れ、自分でアクセスできるのであれば、もう少し参加率がアップすると県民の方々もいいのかなと思う。

(及川委員) 在宅障がい者等の郵送貸出というのが少なくなっているが、いつも借りている人は借りて、借り続けられるようだといいなと希望する。

(事務局：指定管理者) これについては、何か制度を変えたとか、そういったことでは決してなく、今でもこちらに直接くるのが難しい方々については申請していただいて、郵送もこちらで料金を持つというような利用しやすい制度になっており、活用いただいている。登録する方が減ったというようなことも聞いてないので、たまたま偶然かもしれないが、少し利用がなかったのか、そういった状況なのかなとは思っている。こちらとしても重要なサービスと考えている。

(及川委員) 気をつけてお手伝いしながら続けていただきたい。よろしく願います。

(藤原委員) 電子資料の区分けの中に入らないかもしれないが、電子書籍について今後どういう対応していくのか。多分電子書籍しか出ないという本が今後増える。まだ今はすごく少ないが、増えていくと思う。そういったのにはどのように対応していくつもりか。

(事務局：県) 電子書籍は確かにこれから出てくると考えている。電子書籍が出てくる場合には、やはり電子書籍を見る機器と、それから流通の絡み、あとコンテンツ、そのようなものがどのくらい揃うかというのが大切になってくる。今国では総務省とか文科省などの3省でデジタル懇談会を開催して、いろいろ内容を詰めており、その経緯を見ているところである。まだ明確なものが出ていないので、その経緯を見ながら、遅れないような形で準備などをしていきたいと考えている。

(安保議長) そうすると、例えば今後の図書館協議会のときにその情報がわかったとか、うちではこうしたいと考えるとかということは、お話をいただくということでもよろしいか。

(事務局：県) そのようにさせていただきます。

## エ 平成24年度県立図書館事業計画等について

事務局から資料No. 5に基づき説明した。

### 【質疑】

(澤口委員) 先ほどうれし野さんが陸前高田でトレーラーの児童書専門の図書館を発足するというので、これはちょっと画期的だなと、県内にいい影響が出る

のではないかと、被災地の子どもたちのためにもそうだが、県にとってもちょっと画期的なことだと思うので、県の図書館のほうで何らかの形で援助していただけたらいいなと思う。

(安 保 議 長) どこかのお知らせの中でそういうものもあるということをお話していただくとかもあるかなと思う。

(土 方 委 員) 岩手県は広いので、遠いところの利用者からするとデジタルの情報化が、ある意味で画期的であり、ぜひ古文書からで結構なので、頑張ってください。

それから、県立図書館が悪いわけではないが、先ほどの資料購入の予算額はもしかするとそれほど大きくないのだと思う。もしかすると盛岡市より低いかもしれない。やっぱりそれは頑張ってください、いろんなところにはね返るのではと思うので、よろしく願います。

(藤 原 委 員) 震災関連資料コーナーについて、東日本大震災だけではなくて過去の震災に関する書籍もいろいろ所蔵していると思うが、今後もそういうものを集めて復興とか、そういった際に参照しやすいようにしていただきたい。

(澤 口 委 員) 4階の音と映像コーナーの奥に子育て支援・ビジネス支援コーナーがあるが、新しい絵本とか、絵本に関する子育て情報の本がそろっており、また、その奥に相談コーナーがあり、私はとてもいいなと思う。ますます充実していくと本当に多くのお母さん方が頼りにすると思う。

(安 保 議 長) たくさんのご意見をいただいた。今後の図書館の運営によりしく願います。

## オ その他

(事務局：県) 平成21年度の岩手県立図書館協議会において、購入してほしいというものをすべて購入することは難しいと思うが、何かそういった意見を取り入れるようなシステムを考えてもらえないかという意見が出された。その後、他県の図書館等の情報を参考に所定の様式をつくり、希望があれば、当館の収集方針、それから選定基準によって選定をするという事業を行うことにし、今年度から実施していることを報告する。

## (4) そ の 他

## (5) 閉 会